令和７年度地質調査総合センター研究奨励賞について
米岡佳弥氏，野々垣　進氏，中澤　努氏，小松原純子氏による
『埼玉県主要都市部の地下の軟弱層の分布を３次元で可視化』が受賞

産業技術総合研究所地質調査総合センター（GSJ）では，研究者が推進する先端的研究成果の社会発信を加速するため，令和2年度に地質調査総合センター研究奨励賞（GSJ研究奨励賞）を設置し，プレスリリース等の成果発信を奨励している．第6回の実施となる令和7（2025）年度は，2025年1月～12月にGSJの研究者が発表した合計32件のプレスリリースを対象に，「社会課題解決や産業競争力強化への貢献，当該学術分野へ大きな影響を与えることが期待される研究」を選考した．選考にあたっては，地質調査総合センター研究企画室と連携推進室の9名のメンバーから構成される選考委員会を組織した．

選考の結果，令和7年度GSJ研究奨励賞として，地質情報研究部門の米岡佳弥氏，野々垣　進氏，中澤　努氏，小松原純子氏による『埼玉県主要都市部の地下の軟弱層の分布を3次元で可視化―都市域の地質地盤図「埼玉県南東部」を公開―』（令和7年4月24日プレスリリース：https://www.aist.go.jp/aist_j/press_release/pr2025/pr20250424/pr20250424.html　閲覧日：2026年3月31日）が決定された．受賞理由は，「本研究は，埼玉県南東部を対象に1万地点以上のボーリング調査データを解析し，地下数十メートルまでの地質構造を三次元的に可視化した地質地盤図を作成したものである．低地の地下に分布する軟弱な沖積層の詳細な三次元形状を明らかにするとともに，一般に地盤が良いとされる台地地下にも軟弱層が存在することを示しており，首都直下地震に備えたハザードマップ作成や都市計画，土木・建築設計などへの活用が期待される．また，本研究成果は，新聞やウェブメディア等で多数報道されるなど，社会的な関心も高い．以上より，令和7年度地質調査総合センター研究奨励賞に選出した．」である．

その他のプレスリリースについても，学術的に重要な成果や，社会課題解決および地質情報に資する成果など幅広い成果が見られ，GSJの研究者が生み出す研究成果の質の高さや，社会のニーズに沿った研究を進めていることを実感した．今後もプレスリリース等による研究成果の発信が促進されるとともに，GSJや産総研全体でのインターナルコミュニケーションの向上につながることを期待する．

なお，本賞の授賞式は令和8（2026）年3月27日に執り行われ，中尾総合センター長から賞状とトロフィーが贈呈された．

（地質調査総合センター研究企画室）



写真１　2026年3月27日に総合センター長室にて．左から，藤原副総合センター長，野々垣　進氏，米岡佳弥氏，小松原純子氏，中尾総合センター長．